大正期における女性スポーツとメディア-テニスプレーヤー田村富美子の偶像化-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学教養論集刊行会 公開日: 2013-05-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 後藤, 光将 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/14873

明治大学教養論集　通巻485号
(2012・9) pp. 1-27

大正期における女性スポーツとメディア

── テニスプレーヤー田村富美子の偶像化 ──

後　藤　光　将

目　次

1. はじめに
2. 生誕から小学校卒業まで
3. 高等女学校時代 ── 軟球時代 ──
3-1. 庭球部へ入部
3-2. 東京府立第二高等女学校（金栗四三）とのスポーツ交流
3-3. 女子庭球大会のはじまり
3-4. 第2回東京女学生庭球大会（大正11年5月28日　女子学習院）
3-5. 第3回東京女学生庭球大会（大正11年10月22日　女子学習院）
3-6. 全日本女子選手権大会（大正11年11月12日　戸山学校）
3-7. メディアによる女性スポーツ選手の偶像化
4. 高等女学校時代 ── 硬球時代 ──
4-1. 極東選手権大会への女子庭球選手出場問題
4-2. 三井邸での硬式テニスの練習
4-3. 第2回関東女子庭球選手権大会（大正12年4月8, 14, 15日　東京ローンテニス倶楽部）
4-4. 東西女子庭球争覇戦（大正12年4月30日，5月1日　東京ローンテニス倶楽部）
4-5. 第6回極東選手権大会（大正12年5月22日　大阪市立運動場）
4-6. 久邇宮邸台覧庭球試合（大正12年6月10日　久邇宮邸）
4-7. 福田雅之助との結婚（大正15年10月25日）
5. おわりに

1. はじめに

福田富美子（旧姓田村，以下富美子）は，大正後期の日本女子硬式テニス黎明期の選手であり，第1回全日本庭球選手権大会優勝者の福田雅之助と結婚したことでも有名である。

富美子は，自身を取り上げた『新聞・雑誌記事のスクラップ』（82頁）と自らの経歴を綴った『手記』（20頁）を残しており，これまで福田家で保管されていた。それらの資料の存在はこれまで公にされていなかったが，富美子の孫にあたる福田達郎（財団法人日本テニス協会テニスミュージアム委員会委員）が，2009年に㈶日本テニス協会に寄贈した。

日本女子テニスのパイオニア的な存在である人物のまとまった資料，および，簡単な内容ではあるが本人直筆の手記が存在している。これらを基に，体育・スポーツ史上の意義を探りながら，内容を整理して体系的な研究へと

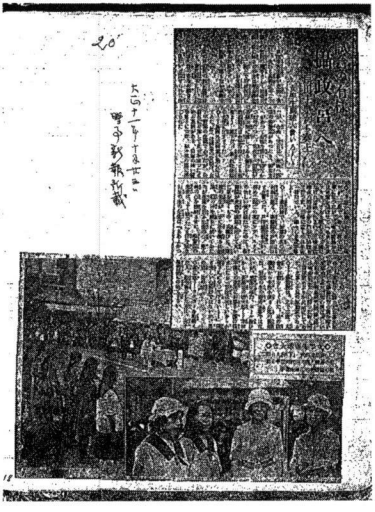

図1　『新聞・雑誌記事のスクラップ』18頁

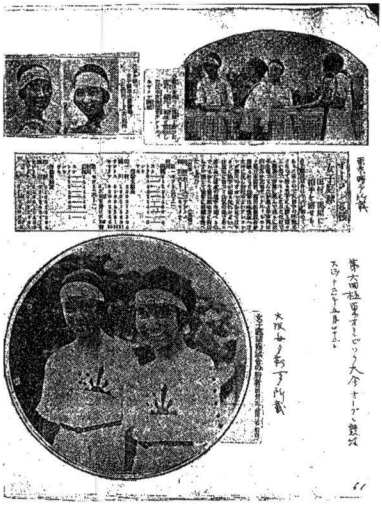

図2　『新聞・雑誌記事のスクラップ』61頁

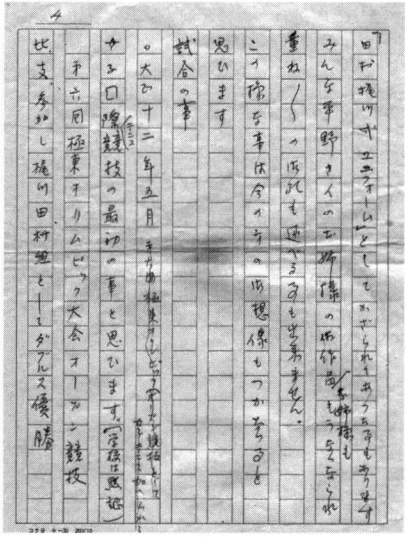

図 3 『手記』4 頁

繋げるための基礎資料の作成を試みた。具体的には，『新聞・雑誌記事のスクラップ』と『手記』をベースに関連文献も手掛かりにしながら，富美子の生誕からテニスの第一線から引退する 20 歳までの経歴を整理した。

2. 生誕から小学校卒業まで

富美子は，明治 39（1906）年 2 月 24 日，父旨達（むねたつ），母すみの長女として東京で生まれた。戸籍上は，「富美」であったらしいが，「富美子」という名前を使うようになった[1)]。明治 42（1909）年 6 月 10 日，21 歳の若さで母すみは病死した（富美子 3 歳，妹の静子 1 歳）。同時に，父旨達は，産婦人科医院を開業するため，単身で山口市に渡った。以後，明石町（現在の東京都中央区明石町）で医師として田村病院を営む祖父光顕（こうけん）に養育された。光顕は，お雇い外国人として東京医学校の教師として招かれた，エルヴィン・フォン・ベルツに深く師事した。明治 38（1905）年にベルツがドイツへ帰国するに

あたり，明石町の居住地を光顕に譲った。ベルツの元居住地に開業したのが，田村病院であった。田村家は男子に恵まれず，五代続けて養子が続いていた。光顕の一人娘のすみに養子をとり，富美子，静子という二人の孫を得た。しかし，娘のすみが幼子を二人残して21歳という若さで病死したことから，光顕は，二人の孫には丈夫な身体に育って欲しいと願った。各種スポーツを積極的に行わせ，毎年夏の一ヶ月は，大磯の海で泳がせるようにした。富美子の以下の言葉からも養育に対する光顕の考えが表れている。

「不規則に走ったり，テニスをやったりしてゐますわ，おぢいさん（光顕氏）はイギリスがあんなに盛んになったのは運動の為だって全く自由にしておいて下さいます」[2)]

小学校6年生の頃，土蔵の中でラケットを見つけて庭で遊んだことが，テニスを始めたきっかけであった。もちろん，この時は硬球ではなく，一般的に行われている軟球のテニスであったと思われる。

3. 高等女学校時代 ── 軟球時代 ──

3-1. 庭球部へ入部

大正7（1918）年4月，富美子は，東京女子高等師範学校附属高等女学校（以下，女高師附高女）に入学した。入学後，彼女は，庭球部（軟球）に入部した。同校のテニスコートは2面あったが，面数の割に人数が多いため，コート脇に並んで球が来るのを待つような部であった。次第に少しずつ打てる様になり，テニス好きの東京女子高等師範学校家事科の家庭物理学の教授で女高師附高女の教諭も兼任していた近藤耕蔵[3)]が，放課後や夏休みに研究のため来校した時の午後3時以降の時間に練習の相手をしてくれた。近藤のおかげで富美子のテニスの腕は着実に進歩した。

3-2. 東京府立第二高等女学校（金栗四三）とのスポーツ交流

大正9（1920）年，3年生の頃，竹早町の東京府立第二高等女学校（以下，第二高女）の教員であった金栗四三が，第二高女のスポーツ好きの生徒7，8人をお茶の水の女高師附高女に連れてきて，富美子の同級生と上級生のクラスのスポーツ愛好者約10人と，バスケットボール，バレーボール，テニスを行った。その後，女高師附高女の教員であった岸も金栗と親友であった関係から，竹早町の第二高女へ出向いてスポーツ交流を行った。このメンバーで東京高等師範学校の艇庫のボートを借りて竹早組，お茶の水組で隅田川を下ったりもした。また，富美子は，校内の運動会種目にリレーレースを加えてもらい大変活躍した。

3-3. 女子庭球大会のはじまり

この頃，大阪では女学生のテニス大会（軟球）が開催され始め，「東京でも催されたら皆で出ませう」など話し合っていたところに，慶應義塾大学庭球部OBで時事新報社の森島直造の尽力により，大正10（1921）年11月に「時事新報社主催第1回東京女学生庭球大会」が第二高女テニスコートで開催された。富美子は出場予定であったが，直前に祖母が亡くなったため欠場した。

3-4. 第2回東京女学生庭球大会（大正11年5月28日　女子学習院）

大正11（1922）年5月，「時事新報社主催第2回東京女学生庭球大会」が青山の女子学習院で開催された。富美子は女高師附高女の同級生・梶川久子とダブルスを組み，決勝で和洋裁縫女学校の井上・小林組を3対0のストレートで破り優勝した。この頃から，同大会を主催した時事新報社は，新聞紙面を用いて富美子らを度々記事に取り上げ，女子庭球界を盛り上げながらその認知度を高めていった。

図 4 『新聞・雑誌記事のスクラップ』4 頁
『時事新報』（大正 11 年 5 月 29 日付）

3-5. 第 3 回東京女学生庭球大会（大正 11 年 10 月 22 日　女子学習院）

大正 11（1922）年 10 月，「時事新報社主催第 3 回東京女学生庭球大会」が前回同様に女子学習院で開催された。静岡県立三島高等女学校（以下，三島高女）や埼玉県立川越高等女学校など府外からも参加があり，出場者数が飛躍的に増加した。そのため，第一部（2 年生以下）と第二部（3 年生以上）に区分され，それぞれトーナメントが行われた。第二部に出場した富美子は，前回同様に梶川と組み，決勝で三島高女の水口・大橋組をストレートで破り，下馬評通りに優勝した。

3-6. 全日本女子選手権大会（大正 11 年 11 月 12 日　戸山学校）

大正 11（1922）年 11 月，「大日本同志会主催全日本女子選手権大会」が戸山学校で開催された。本大会に東京朝日新聞社は後援したため，同新聞には連日関連記事が掲載された。同大会の種目は，陸上競技（50 m, 100 m, 50

mハードル，200mリレー，300mメドレーリレー，400mリレー，走り幅跳び，走り高跳び，インドアベースボール投げ，バスケットボール投げ），バスケットボール，バレーボールであった。富美子は，陸上競技の50m（7秒6），100m（14秒6），300mメドレーリレー（45秒4），400mリレー（59秒6）に出場して，全種目に優勝した。富美子は，この大会後のエピソードとして次のように振り返っている。

「この成績ならさぞ先生方も喜んでくださるだろうと思って登校したら，待っていたのはお小言よ。『あなたは昨日，靴下を脱いだそうじゃありませんか。女の子がそんなことでどうしますか。もっとつつましやかにしなさい』って。私，その大会のために新しいスパイクを注文したんだけれど，それがあまりにもフィットしていたんで，靴下をはくなんて思いもよらなかったの。そんな時代だったのよ」[4)]

しかしながら，大会翌日の『東京朝日新聞』（大正11年11月13日付）では，学校側の反応とは異なり，素足の富美子の姿を好意的に報道した。

「……多くは黒靴下を穿いたが，中には彫刻の様な両足を冷たい風に曝して平氣で居るものもある。全く大空の下に放たれた自然の歓喜そのものの姿ではないか……」[5)]

このようなメディアと学校当局との女性スポーツに対する意識のずれは，後述の第6回極東選手権大会出場問題でも垣間見ることになる。

本大会は，日本における女子陸上競技の最も組織立った大会であったことから，短距離系種目で圧勝した富美子の記録（50m，100m）は，一般的に日本記録とみなされた。

「女子の競技大會は最近各地方で開始さるる様になったが今大會の様に組織立った選手權大會はまだ他に多くを見る事が出来ない（中略）多くの種目に出場して居りながら少しの疲勞の色も見せない『女は弱き者なり』と云ふ言葉は今日の大會を見た人達には恐らく過去の事實を物語る言葉になったに違ひない，（中略）五十米突，百米突に斬然二頭他を抜いた成績で優勝した田村嬢の走法は本大會選手中出色の感があった。あの均整發育した體躯にあのフォームは他選手の追從を許さなかったのも當然の事である」[6]

3-7. メディアによる女性スポーツ選手の偶像化

富美子は，テニスだけではなく，陸上競技においても存在感を示したことから日本女子アスリートの第一人者として位置づけられた。さらに，女高師附高女の学生，家柄，容姿，運動時の服装など，様々な要素において，新聞や雑誌を通じて取り上げられることによって，富美子は「偶像（アイドル）化」されていった。

大正12年5月に大阪で開催予定の第6回極東選手権大会に女子テニスを加えたいとのフィリピンからの申し入れを発端として[7]，日本，フィリピン，中華民国の3ヶ国において調整して大正11年末には，公開競技ではあるものの，初めて女子テニス（硬球）が加えられることが決定していた。そのため，大正11年末頃から新聞紙上では，日本人女性として初めての出場となる国際テニス大会の展望記事が度々掲載された。

以下の新聞記事は，大正11年から大正12年3月までに富美子を取り上げたものである。

1. 「女学生の運動　庭球の天才　お茶の水高女の田村富美子さん」やまと新聞，大正11年7月8日
2. 「春の運動会㈠　麻疹を吹き飛ばしたお茶の水の名花田村富美子さ

ん」東京日日新聞，大正12年1月1日

3. 「咲きみだる，花のごとくに[1]　ことし日本の運動界を飾る女流は誰々ぞ　スポーツ・ウーマンの花形として十八の春を迎へた田村富美子嬢」大阪毎日新聞，大正12年1月1日
4. 「春の運動会㈡　庭球界でも女王　期待さるる田村さんの活躍」東京日日新聞，大正12年1月2日
5. 「咲きみだる，花のごとくに[2]　日本の女子テニス界に天才の光り閃く　お茶水高女の田村，梶川組　田村さんは短距離でもレコード・ホールダー」大阪毎日新聞，大正12年1月2日
6. 「運動シーズンの花㈣　女流選手の第一美　お茶の水の花　日本橋田村病院の院長光顕氏のお孫さんで十八の富美子さん」読売新聞，大正12年3月15日

4. 高等女学校時代 ── 硬球時代 ──

4-1. 極東選手権大会への女子庭球選手出場問題

『アサヒグラフ』（大正12年3月9日付）には，第1面の見出しに「極東大會に出る女子庭球選手問題」と題打ち（図5参照），第3面の約半分のスペースを使用して大きな特集記事[8]が組まれた（図6参照）。女子学習院の大島院長の意見では，学習院では第6回極東選手権大会には一切選手を出さないこと，女高師附高女においても同じ考えだろうというコメントが記された。

学習院では出場は一切許さない ── 東京全學校の内約 ──

柳谷さん[9]はこの三月學校を卒業するのですから學校は別に關係なくなると思ひます。在校生徒の中に良い選手があってもオリンピック大會に

図5　『アサヒグラフ』（大正12年3月9日付）1面

図6　『アサヒグラフ』（大正12年3月9日付）3面

出席するといふことは學校としては拒みます。生徒が出席したいといってもそれは駄目でせう。何故かって別に深い理由もないが一般に東京の女學校では生徒を外へ出さないやうにきめてあります。規約といふ程の事でもないが未だ一度もさういふ例がないから習慣に従って出さないといふ丈です。今後何うするかってそれは分りませんよ。多分お茶の水でもオリンピック大會に生徒を出すやうな事はありますまい。柳谷さんも多分自分が出度いと云っても家では許さないでせう

国際競技大会に女学生が出場するということは，前例の無いことで，学校側に戸惑いが生じていることが十分窺えるが，それに比して，選手や家族は，やはり出場を切望しているようであった。

出たさうな田村さん

田村富美子さんは『學校の方ではどんな風に考へてゐるか知りません。柳谷さんは兎に角，私なんか全く出来てゐないんですからネ……』一寸謙遜して，さて直ぐ其の後から『どうも冬はコートが自由に使へないものですからネ……練習と云った處が一寸いたづらする位のもので今年になってから一回も練習しません。之が一番閉口しますよ』と腕をお撫でにならない許り『家庭の方もはっきりとは相談してゐませんが……まあ學校と同じ位の程度でせうよ……』と段段お話も活潑になる『出席したい事は山々ですが……愈出てもいい事にきまればこれから一生懸命練習しようと思ひます』と又細からぬお腕を撫でない許りの元気

また，主催者側の大日本体育協会の意見としては，懸念される不安を取り除き，学校側の理解を得て，何とか女性選手の国際競技大会参加への門戸を開きたいと考えているようであった。

体協側の意見

大日本體育協會委員近藤幾吉氏の意見では『本人や家庭では出場に大賛成だが學校側で進まないのは妙な現象だと思ひます。學校側の不安は

一　預かって居る年頃の娘さんを外泊させる事
二　昨年來女子運動の勃興と同に選手は新聞雑誌の花形となった為め學校宛に色々な手紙が來ること

等が出場させ度くない原因だと思ひますが一方海を渡って來る比，支選手も良家の子女であることを思ふと其れは問題ではありますまい。學校から適當な先生を監督につけて出すのも國際的競技を奨励する意味から至當なことだと思ひます』

4-2. 三井邸での硬式テニスの練習

これらのメディア報道の後押しを受けて，富美子等は学校側が「黙認」するというかたちで大正12（1923）年5月に開催される極東選手権大会の公開競技参加への道筋が出来上がった[10]。関東，関西の女学校の有力なテニス選手達は，一斉に硬球の練習を始めるようになった。富美子や梶川久子は，霜解けを待って3月下旬頃から練習を始めた。3月に女高師附高女を卒業した（翌月から専修科に進学）ことや，国際試合出場は学校の本意に沿わなかったため，女高師附高女のコートは使用できなかった。そのため，ポプラ倶楽部や三井財閥の三井高修（たかなが）[11]の自宅コートで練習が行われた。三井邸では，高修自身がコーチを務めるときもあったが，福田雅之助，鳥羽貞三など当時の一流選手からコーチを受け，上達に拍車をかけた[12]。

4-3. 第2回関東女子庭球選手権大会（大正12年4月8, 14, 15日 東京ローンテニス倶楽部）

大正12（1923）年4月，「日本庭球協会関東支部主催第2回関東女子庭球選手権大会」が三年町の東京ローンテニス倶楽部で開催された。同大会の第1回大会は，前年11月に開催されたのであったが，出場選手数は4名と少なかった。そのため，「第2回」ではあるもの，実質的には本格的な女子硬式テニスのトーナメントとしては国内初と位置づけられる。また，同時期に関西でも「大阪時事新報社主催第1回関西女子庭球選手権大会」が挙行された。第6回極東選手権大会の競技種目に女子テニスが加えられたことにより，日本女子硬式テニス界は，関東と関西を中心に一気に盛り上がりを見せた。「第2回関東女子庭球選手権大会」に出場した富美子は，初めての硬球での公式戦であったが，シングルスでは決勝でストレーラーを2-1（6-2 4-6 6-2）で破り優勝，梶川久子と組んで出場したダブルスでは決勝でボサンビア・ストレーラー組に0-2（1-6 9-11）で敗退し準優勝という成績であった。富

美子は，本大会において，硬球を始めて間もないながらも，硬球に長らく慣れ親しんだ居留外人選手と互角，あるいはそれ以上の戦いを経験して，第6回極東選手権大会出場に向けて随分自信がついたと思われる。

また，富美子と梶川久子は硬球のトーナメントに初参加するにあたり，ユニフォームを新調した。このことは，翌日の『時事新報』（大正12年4月9日付）にも報じられた。

「……お茶の水の梶川田村兩嬢此日のいでたちはユニホームに鉢巻と云ふ變ったもの其譯はと問へば婦人では世界一の大選手フランスのランラン嬢の型をソッと失敬したとありこれが非常な評判となって先づ選手連は驚き，観衆は注視する……」[13)]

このユニフォームの新調の経緯については，『手記』にも記されている。

図7　『新聞・雑誌記事のスクラップ』40頁
『時事新報』（大正12年4月16日付）

「通学は袴が多い時代で洋服はまれの時代でしたが，テニスもはじめはそのままでしたが，試合に出る様になりましてからはまづ私は平野様のお姉様で二年上級に居られ，テニスに便利なユニフォームを作って下さいました。試合の友ごとにおそろひでとても嬉しかった事憶えて居ります」

4-4. 東西女子庭球争覇戦（大正12年4月30日，5月1日　東京ローンテニス倶楽部）

大正12年4月30日から5月1日の2日間にかけて，「日本庭球協会主催東西女子庭球争覇戦」が東京ローンテニス倶楽部で開催された。4月中旬に行われた関東，関西の各トーナメントの上位進出者からシングルス4名，ダブルス2組ずつが出場した。また，本大会のシングルス決勝進出者の2名，ダブルス優勝の1組は，極東選手権大会の代表選手に選ばれることにもなっていたため，世間の注目を集めた試合となった。単複両種目に出場した富美子は，シングルスは準決勝で関西の金田咲子にフルセットの末に敗退したが，梶川と組んだダブルスでは優勝した。したがって，田村富美子・梶川久子組は，第6回極東選手権大会のダブルス種目に出場する権利を得た。

4-5. 第6回極東選手権大会（大正12年5月22日　大阪市立運動場）

大正12（1923）年5月22日，第6回極東選手権大会は，新設されたばかりの大阪市立運動場で開催された。オープン競技の女子テニスダブルスに出場した田村・梶川組は中華民国，フィリピンの組と対戦して2連勝して優勝した。また，シングルスは日本の金田咲子が優勝した。

富美子と梶川の評判のお揃いのユニフォームは，その後，三越日本橋本店において「田村梶川式ユニフォーム」として販売されることになった。その経緯についても『手記』に記されている。

「私事でございますが，私は曾祖母に育てられた関係上，とても平野さ

図 8　第 6 回極東選手権大会[14)]
富美子（左）と梶川（右）とフィリピン選手

んの御宅の皆様に大変御世話になりました。殊に極東大会の時の後などは，二人で三越へ買物に参りました時，『ユニフォームを御持参でしたら見せてほしい』と云はれ，地方からの注文があるのでとの事でした。その後街頭の店頭に，田村梶川式ユニフォームなどと書いてぶらさがってゐるのをみかけた事があります。何でもはじめての事でございますので。はじめての事で今の方の御想像つかない事と思います」

4-6. 久邇宮邸台覧庭球試合（大正 12 年 6 月 10 日　久邇宮邸）

大正 12（1923）年 6 月 10 日，下渋谷の久邇宮邸において女子テニス選手を集めて台覧試合が行われた。富美子の『手記』には，この試合について以下のようなメモが記されている。

「関東関西の女子選手 11 名と共に田村梶川組として台覧試合の光栄に浴した事。藤井主事も陪観者として出席。現皇后陛下が良子女王殿下であらせられ御主人役として色々御接待の御様子も拝した。久邇宮殿下にねぎらひの御言葉を頂き，御紋章入りのビンさへ頂いて有難さ一杯で退下

した事。秩父宮殿下を御始め多数の宮様が宮家の御賓客として行啓遊ばされた事。」

また，上記のメモの内容を増幅させた形式で『日本庭球協会十年史』には，回想記が掲載されている。このことから，このメモは，『日本庭球協会十年史』に寄稿する際に下書きとなったものであった可能性も考えられる。

「大正十二年六月十日關東五名一柳谷澄子さん，安場嘉智子さん，羽仁説子さん，梶川久子さんと私。關西よりは戸田定代さん，金田咲子さん，吉原富子さん，松永美穂子さん，大垣敏子さん，菊園千重子さんの六名。これらの十一名は下澁谷の宮邸の尊きコートに於て台覧を賜る身に餘る光榮に浴しました。當時良子女王殿下にてあらせられました只今の皇后陛下の，各宮殿下に對する御様子を拝見致し，私共のために，あの様にして各宮様を御迎へ遊ばしますのかと恐れ多くさへ感じました。

その日は宮様の御前と云ふ緊張した氣持ちと有難さとで夢中で試合を致しました。

試合が終りまして朝吹庭球協會長はじめその日の勞をとられました協會の役員及び時事新報社の方々と選手一同が最敬禮を致しました折，故久邇大宮殿下には親しくコートに下り立たれ『みなさん，今日は御苦勞でした』との御言葉を賜りました上に，選手一同に御紋章入りのピンを賜り，感激に滿ちて退下致しました。その時の御言葉が今でも身に沁みて思ひ出されるのでございます。」[15]

4-7. 福田雅之助との結婚（大正15年10月25日）

富美子は，久邇宮邸台覧試合の後，幾つかのトーナメントに出場するが，目立った成績は残していない。元々，幼くして亡くした母の代わりに一切の家事をまかされていたことや，高齢の曾祖母の看病で思うように練習ができ

なかったことから，極東選手権大会優勝という大きな目標達成後は，本人のテニス熱は冷めていったのではないかと思われる。

大正13年末に祖父光顕は，富美子の父旨達の廃嫡訴訟を起こし，富美子を跡目相続人とすることにしていた。光顕としては，有望な医師を娘婿に取り，自身の病院を譲りたいと考えていた。富美子は，祖父からのこの期待を背負いながらも，海外遠征の度に恋文を送ってくる福田雅之助に次第に気持ちが傾いていった。ほとんどが親の決めた相手と結婚している中で，恋愛結婚をしようとするのは非常に勇気のいることであった。

そして，大正15年10月25日，富美子は福田雅之助と結婚した。その後は一切テニス選手としての活動は行わず，家庭に入り夫の活動を支える生活を選んだ。もし，富美子がたった一人の孫なら，福田雅之助との恋愛結婚はかなわなかったかもしれない。妹の静子がいたお陰で光顕の許しが出た。後年，静子は光顕の決めた養子と結婚している。

5. おわりに

富美子は，大正11年から12年にかけて，時事新報社が中心となり急速に発展した我が国の女性スポーツイベントの創出期において，主役を演じた代表的女性アスリートであった。「強い女性育成のため」13歳まで毎年夏には1ヶ月海水浴を行わせるという祖父の教育方針から始まり，袴，制服姿で運動を行っていた中で，当時世界一の女子テニス選手スザンヌ・ランランを彷彿とさせるテニスファッション（田村梶川式ユニフォーム）の導入，日本人女性として初めて国際テニス大会に出場して優勝するなど，日本女性スポーツの開拓者として，その後に与えた影響は少なくないと思われる。

富美子の生誕から結婚するまでの足跡を辿る基礎資料を整理する過程から，メディアにより偶像化されていく彼女の存在が明らかとなった。メディアが創出した女性スポーツイベントによって，富美子等は主役に躍り出たわけで

あったが，メディア自身もそこで躍動する女性アスリート達の報道価値を見出していった。これらの報道は，時には，スポーツ報道の枠を超え，女性特有の言説が形成されていくことになった。有名な医師の孫，女高師附高女の生徒，容姿，福田雅之助との恋愛結婚など，彼女に関する言説は，メディアにより広く全国に流布され，憧れの存在として富美子は偶像化されていくことにもつながったのである。

《註および引用・参考文献》

1）「謄本は富美なれど，ずっと富美子と呼びならして来た」『手記』より。
2）「運動シーズンの花（四）女流選手の第一美お茶の水の花日本橋田村病院の院長光顕氏のお孫さんで十八の富美子さん」，読売新聞，大正12年3月15日付。
3）近藤耕蔵……明治6（1873）年8月3日神奈川県生。神奈川県尋常師範学校卒業後，物理，数学の教員として大磯尋常高等小学校に奉職。同校を休職して，高等師範学校物化数学部に入学して明治34年卒業。福井県師範学校教諭，女子高等師範学校助教授，明治44年同校教授。附属高等女学校教諭も兼任した。実験物理学，家庭物理学を担当した。日々の運動のためにテニスを好んでした。原田一（1988）「家事教育の科学化の歩み（Ⅰ）── 近藤耕蔵を中心として ──」『日本家庭科教育学会誌』第31巻第2号，1-6頁より。
4）小林公子（1990）『遙かなりウィンブルドン　日本女子テニス物語』河出書房，32頁。
5）「選手姿花やかに　若き血躍る大競技　戸山学校トラックの小春日和　本社後援大會の盛観」『東京朝日新聞』大正11年11月13日付，2面。
6）「総評〈各選手に望みたい事〉」『東京朝日新聞』大正11年11月13日付。
7）「……明後年日本に開かれる極東オリムピック大會には『是非女子の庭球（硬球）を入れたい』との通知が比律賓から來，支那側も賛成しているので……」「明後年のオリンピックに女子参加の勸誘　比律賓からの申し出」，『時事新報』大正10年11月1日付。
8）「極東大會に出る女子庭球選手　学校側は拒絶家庭側は賛成？　學生等は出たさう」『アサヒグラフ』大正12（1923）年3月9日付，3面。
9）女子学習院のテニス選手，柳谷澄子のこと。
10）富美子は「手記」で第6回極東選手権大会に関する記述として「日本女子国際テニス競技の最初の事と思ひます（学校は黙認）」と記している。
11）三井高修（1892-1962）昭和時代の実業家。明治25年2月28日生まれ。三井高景の3男。三井小石川家9代。アメリカのダートマスーカレッジ卒業。昭和16年三井化学工業会長，18年三池石油合成社長。戦後は財閥家族に指定された。

昭和37年2月11日死去。69歳。東京出身。

12) 小林公子（1990）『遙かなりウィンブルドン　日本女子テニス物語』河出書房，17-20頁。

13) 「ユニホームに鉢巻して極東のランラン氣取り　梶川，田村兩孃のいでたち庭球大會雑觀」『時事新報』夕刊，大正12年4月9日付。

14) 小林公子（1990）『遙かなりウィンブルドン　日本女子テニス物語』河出書房，9頁。

15) 福田富美子「光榮の久邇宮邸に於ける御前試合」，日本庭球協会（1932）『日本庭球協会十年史』日本庭球協会，365-366頁。

表1　田村富美子略歴（結婚まで）

明治39（1906）年2月	24日生誕
明治42（1909）年6月	母きみ死去 41年生れの妹と曾祖母により文京区で養育される。 祖父，祖母は本石町の本宅に居住し，祖父は築地明石町の病院の医師 父は，幼時より山口県病院に勤務，後山口にて開業。母健在の頃，父と母は明石町病院内のテニスコートでテニスをした事あり。 小学6年の頃土蔵の中でラケットを見つけ庭で遊んだ。 小学校在学中は毎夏一ヶ月大磯の海で水泳ぎをし，まっ黒になって過ごす。
大正7（1918）年4月	東京女子高等師範学校附属高等女学校入学 本格的にテニスを始める。 人数が多くコート少なく両方にずらっと並んで球の来るのを待つだけだったが，辞めなかった。
大正9（1920）年秋	運動会の種目にリレーレースを加えてもらう（3年の時）
大正10（1921）年11月	第1回女学生庭球大会（府立第二高女） 祖母の死により欠場
大正11（1922）年5月	第2回女学生庭球大会（女子学習院） 優勝　田村・梶川3-0井上操子・小林つた（和洋裁縫）
大正11（1922）年10月	第3回女学生庭球大会（女子学習院） 優勝　田村・梶川3-0水口・大橋（三嶋高女）
大正11（1922）年11月	大日本体育同志会主催第1回全日本女子陸上選手権大会 50米　1位　田村　7秒3/5（予選2回あり） 100米　1位　田村　14秒3/5 400米リレー　1位　お茶の水　59秒3/5（ラストを走る） 300米メドレーリレー　1位　お茶の水　45秒2/5（100の所を走る）
大正12（1923）年3月	東京女子高等師範学校附属高等女学校卒業
大正12（1923）年4月	東京女子高等師範学校附属高等女学校専攻科入学
大正12（1923）年4月	第2回関東女子庭球選手権　麹町三年町ローンテニスクラブ

	シングルス優勝（田村 6-2 4-6 6-2 ストレーラー）
	ダブルス準優勝（ボサムビア・ストレーラー 6-1 11-9 田村・梶川）
大正12（1923）年 4-5 月	第 1 回関東関西女子庭球争覇戦
	ダブルス優勝　田村・梶川 8-6 4-6 6-1 柳谷・安場
大正12（1923）年 5 月	第 6 回極東選手権大会　オープン競技
	ダブルス優勝　田村・梶川 6-2 6-1 サットス・キャリヤナ
	「日本女子国際テニス競技の最初の事と思ひます（学校は黙認）」
大正12（1923）年 6 月	久邇宮後本邸内コート台覧試合
大正13（1924）年10月	第 3 回関東女子庭球選手権大会（慶大コート）
	シングルス 3 位
	ダブルス優勝（田村・梶川）
大正14（1925）年 4 月	第 4 回関東女子庭球選手権大会（東京ローンテニスクラブ）
	シングルス準優勝
大正15（1926）年 4-5 月	第 5 回関東女子庭球選手権大会（東京ローンテニスクラブ）
	ダブルス優勝（朝吹・田村）
大正15（1926）年10月	福田雅之助（29 歳）と田村冨美子（20 歳）大隈会館で結婚式。午後に茶話会，夜に披露宴。

表 2 『新聞・雑誌記事のスクラップ』記事タイトル一覧

頁	誌　名	年月日	記事タイトル	写真	使用球	大会名（キーワード）
1	時事新報	T10.11.1	眞にこれ東都女子運動界空前の盛擧　歓喜と緊張とに終始した本社主催第一回女學生庭球大会　見よ！雄々しくも健げな此の勇姿		軟球	時事新報社主催第 1 回女学生庭球大会
	時事新報	T10.11.1	五女王殿下とも庭球の御趣味　いとも深く最終まで御満悦の態に御覧遊さる　来賓選手父兄何れも感激す		軟球	
2	時事新報	T10.11.1	伎倆に就て服装に就て　庭球協會針重氏談		軟球	
	時事新報	T10.11.1	明後年のオリンピックに女子参加の勧誘　比律賓からの申出　来観の近藤理事大會を喜ぶ		軟球	第 6 回極東選手権大会 時事新報社主催第 1 回女学生庭球大会
3	時事新報	T11.5.12	お茶の水庭球界のスター	有		田村梶川の紹介（写真有）
4	時事新報夕刊	T11.5.28	華やかに勇ましい女学生の庭球大会　若宮姫宮十二殿下を迎へ　今日本社主催女子学習院校庭にて		軟球	時事新報社主催第 2 回女学生庭球大会

5	時事新報	T11.5.29	選手の熱狂裡に第三回戰始まる 著しく進んだ選手の腕		軟球	
6	時事新報	T11.5.29	賞品授興式と御臨場の梨本宮妃殿下	有	軟球	
7	時事新報	T11.5.29	白熱の陽，直射の下　健氣なるその奮戰よ　姫宮も選手も應援も熱狂して昨日女學生の庭球大會		軟球	
8	時事新報	T11.5.29	最後の勝を得て　金牌を授興された二選手	有	軟球	
9	時事新報	T11.5.29	勝者も敗者も一堂に會し悦びの氣溢れた茶話會　選手を喜ばせた訓話三つ		軟球	
	時事新報	T11.5.29	庭球大會に感じた事ども		軟球	
	時事新報	T11.5.29	技術の發達には驚いた　庭球協會の鎌田氏語る		軟球	
10	時事新報	T11.5.29	優勝したお茶の水高女の梶川（左）田村（右）の両嬢		軟球	
11	時事新報？	T11.6.4	女學生庭球大會の批判　愉快に面白い立派なゲーム　女性生活に一新時期を劃した東京女學生庭球大會　日本庭球協會　針重敬喜		軟球	
12	時事新報？	T11.6.4	優勝校お茶の水女生徒の観た庭球戰		軟球	
13	時事新報？	T11.6.4	自校選手を拍手で送る応援團	有	軟球	
14	時事新報	T11.10.18	あと4日　女學生庭球大會各校選手の練習振り		軟球	時事新報社主催第3回女学生庭球大会
15	時事新報	T11.10.22	第三回東京女學生庭球大會　驚く可き進歩の跡　待たるるは愈よ今日の決戰		軟球	
16	時事新報	T11.10.22	御緊張の姫宮様パチパチと御拍手		軟球	
	時事新報夕刊	T11.10.22	（試合結果）		軟球	
17	時事新報	T11.10.23	輝く秋の陽に映ゆる選手の姿よ 昨日盛況の裡に終了した本社主催の女學生庭球大會		軟球	
18	時事新報	T11.10.23	試合の有様を攝政宮へ　戸田主事から奏上		軟球	
	時事新報	T11.10.23	女學生庭球大會（上）賞品授典式，（下）右より第二部の優勝者梶川田村両選手と第一部の優勝者池田榊両選手	有	軟球	

19	時事新報	T11.10.24	第三回女學生庭球大會評　邪道に陥った三嶋【上】針重敬喜		軟球	
	時事新報	T11.10.25	第三回女學生庭球大會評　最も興味ある試合【中】　各個人の成績について針重敬喜		軟球	
	時事新報	T11.10.26	第三回女學生庭球大會評　個人の成績について【下】針重敬喜		軟球	
20	時事新報	T11.10.24	感じた事ども　鎌田芳雄		軟球	
	東京朝日新聞	T11.11.13	選手入場式	有		大日本体育同志会主催 全日本女子選手権大会
21	東京朝日新聞	T11.11.13	選手姿花やかに　若き血躍る大競技　戸山学校トラックの小春日和			
22	東京朝日新聞	T11.11.13	女子競技記録			
23	東京朝日新聞	T11.11.13	夕焼の大空に轟く女性の萬歳　来賓の男子連豫想が外れて驚嘆した女子競技			
24	東京朝日新聞	T11.11.13	女子競技大會の勇者	有		
25	やまと新聞	T11.7.8	女學生の運動　庭球の天才　お茶の水高女の田村富美子さん（その一）	有		個人紹介記事
26	やまと新聞	T11.7.10	女學生の運動　鮮やかな前衛振　お茶の水高女の梶川久子さん（その三）	有		
27	東京日日新聞	T12.1.1	春の運動会㈠　麻疹を吹き飛ばしたお茶の水の名花田村富美子さん			
	東京日日新聞	T12.1.2	春の運動会㈡　庭球界でも女王期待さるる田村さんの活躍			
28	アサヒグラフ	T12.3.9	極東大會に出る女子庭球選手　學校側は拒絶家庭は賛成？學生等は出たさう	有		極東オリンピック 個人紹介記事
29	大阪毎日新聞	T12.1.1	咲きみだる，花のごとくに［1］　ことし日本の運動界を飾る女流は誰々ぞ　スポーツ・ウーマンの花形として十八の春を迎へた田村富美子嬢	有		
30	大阪毎日新聞	T12.1.2	咲きみだる，花のごとくに［2］			個人紹介記事
			日本の女子テニス界に天才の光り閃く			
			お茶水高女の田村，梶川組　田村さんは短距離でもレコード・ホールダー			

31	読売新聞	T12.3.15	運動シーズンの花㈣			
			女流選手の第一美　お茶の水の花			
			日本橋田村病院の院長光顕氏のお孫さんで十八の富美子さん			
32	プログラム	T12.4.15	第二回関東女子庭球選手権大會トーナメント表		硬球	日本庭球協會関東支部主催 第2回関東女子庭球選手権大会
33	スナップ写真		試合風景写真，選手集合写真		硬球	
34	時事新報	T12.4.9	折柄荒ぶ風塵を切って飛ぶ熱球 今日の女子庭球選手権大會に戰ふ花の婦人選手		硬球	
	時事新報	T12.4.9	ユニホームに鉢巻して極東のランラン氣取り　梶川，田村両嬢のいでたち 庭球大會雑感		硬球	
35	時事新報	T12.4.10	シングル準決勝の優勝者　上より田村，ストレラー，羽仁，アツシヤーの各選手	有	硬球	
36	時事新報	T12.4.10	觀衆を唸らせた大接戰振り　堂々たる態度に終始した女子庭球大會の第一日		硬球	
37	時事新報夕刊	T12.4.14	女子庭球第二日目　×印は今日の花形田村選手	有	硬球	
38	時事新報夕刊	T12.4.14	美しき晴れの日　今日ぞ決戰の婦人選手女子庭球選手権大會の第二日		硬球	
	時事新報夕刊	T12.4.14	美しい見物一千人　女子庭球の雑感		硬球	
38-39	時事新報	T12.4.15	田村梶川組惜しくも敗れ　田中夫人のカップはボサムビヤ，ストレーラー両嬢へ		硬球	
40	時事新報	T12.4.16	選手權を得た田村富美子さん	有	硬球	
41	時事新報	T12.4.16	夕陽，花に映ゆる下　闘ふ美しの両選手　関東女子庭球シングル選手權を獲た田村富美子さん		硬球	
42	時事新報（水曜付録）	T12.4.18	女子庭球の覇者　十五日関東女子庭球選手權大會最終日に單試合の優勝を争った田村選手（右）とストレーラー選手（左）	有	硬球	日本庭球協會関東支部主催 第2回関東女子庭球選手権大会
43	時事新報	T12.4.17	第二回関東女子庭球選手權大會批判㈠ 豫ての理想の実現　日本庭球協會 鎌田芳雄		硬球	

	時事新報	T12.4.18	第二回関東女子庭球選手權大會批判(二) 東西洋女性の握手　日本庭球協會鎌田芳雄		硬球	
	時事新報	T12.4.19	第二回関東女子庭球選手權大會批判(三) 單試合一回戰から　日本庭球協會鎌田芳雄		硬球	
44	時事新報	T12.4.20	第二回関東女子庭球選手權大會批判(四) 梶川嬢の敗因　日本庭球協會鎌田芳雄		硬球	
	時事新報	T12.4.21	第二回関東女子庭球選手權大會批判(五) 田村羽仁兩嬢の對戰　日本庭球協會鎌田芳雄		硬球	
45	時事新報	T12.4.22	第二回関東女子庭球選手權大會批判(六) 内外婦人の決戰　日本庭球協會鎌田芳雄		硬球	
	時事新報	T12.4.25	第二回関東女子庭球選手權大會批判(七) 複試合で得た教訓　日本庭球協會鎌田芳雄		硬球	
46	時事新報	T12.4.25	関東女子庭球單試合選手權保持者の田村富美子さん	有	硬球	
47	アサヒスポーツ	T12.5.1	（選手写真）	有	硬球	
48	アサヒスポーツ?	T12.5.1	庭球を初めた私の動機　母上の短命に追慕を寄せるも涙の種，體育の必要をしみじみと訓へられて梶川さんとは振分髪の運動友達　田村富美子			本人が雑誌に寄せた手記
49	アサヒスポーツ	T12.5.1	（田村写真）	有	硬球	日本庭球協會関東支部主催 第2回関東女子庭球選手権大会
50	アサヒスポーツ	T12.5.1	（梶川写真）	有	硬球	
51	アサヒスポーツ	T12.5.1	單試合優勝者田村富美子嬢	有	硬球	
52	時事新報？	T12.4.29	愈々本日試合開始の東西兩選手	有	硬球	東西女子庭球選手権争覇戦 （極東選手権大会予選）
53 ｜ 54	時事新報	T12.4.30	関東側選手を悩ました関西選手の熱球 併し遂にダブルに全敗　女子選手権大會の第一日	有	硬球	
55	時事新報	T12.5.1	準決勝に関西の戸田選手勝つ　果然大接戦を演じた田村對金田は雨で延期　女子選手權大會の第二日		硬球	

56	時事新報	T12.5.1	日本女子庭球の選手権は東西いづれの手に　いよいよ運命を決する争覇戦　白日の下，見よ力戦する諸嬢		硬球	
	時事新報	T12.5.2	栄ある花束　優勝せる選手（右から梶川，田村，金田の順）	有	硬球	
57	時事新報	T12.5.2	シングルの覇權は遂に関西の金田選手へ 田村梶川組はダブルに優勝		硬球	
58	時事新報	T12.	関東関西女子庭球争覇戰の後に㈢女子庭球界の新紀元　日本庭球協會　明石雷一		硬球	
59	時事新報	T12.	関東関西女子庭球争覇戰の後に㈤各選手の技倆に就て　日本庭球協會　明石雷一		硬球	
60	大阪毎日新聞付録	T12.	（田村梶川写真）	有	硬球	
	時事新報	T12.5.14	（関西への出発写真）	有	硬球	第6回極東選手権大会
61	時事新報	T12.5.22	オープン競技女子庭球 田村，梶川に拍手を浴せる		硬球	
61	大阪毎日新聞	T12.5.22	女子庭球複試合の勝者（田村梶川両嬢）	有	硬球	
62	大阪時事新報	T12.5.27	秩父宮女子庭球選手へ御會釈を賜る	有	硬球	
	時事新報	T12.5.28	時事新報カップを受けた田村梶川二嬢	有	硬球	
63	時事新報	T12.5.28	オープン競技女子庭球複試合　日本支に勝つ		硬球	
	時事新報	T12.5.29	極東大會戦ひの迹　女子庭球で活躍したわが四選手に就て　庭球委員　片岡直方氏談		硬球	
64	時事新報	T12.5.28	トロフイ授興式　中の嶋公會堂にて		硬球	
	時事新報	T12.5.28	勝てる兩嬢　田村梶川の二選手帰京す	有	硬球	
65	アサヒスポーツ	T12.5.15	（集合写真）	有	硬球	東西女子庭球選手権争覇戦（極東選手権大会予選）
66	アサヒスポーツ	T12.6.1	（集合写真）	有	硬球	三井家主催三国女子庭球選手懇談会（5月18日梅田）

67	アサヒスポーツ	T12.6.1	（開会式写真）	有	硬球	第6回極東選手権大会
68	アサヒスポーツ	T12.6.1	日本對民國女子庭球複試合，手前が日本	有	硬球	
	アサヒスポーツ	T12.6.1	（選手写真）	有	硬球	
69	大阪毎日新聞付録　第六回極東大會時報	T12.6.5	（試合写真）	有	硬球	
70	大阪時事新報夕刊	T12.6.13	久邇宮御本邸の東西女子庭球選手台覧試合	有	硬球	久邇宮邸台覧試合
71-72	時事新報	T12.6.13	女子庭球の花形が台覧試合に白熱戦　久邇宮御一家揃っての御斡旋で秩父宮はじめ各宮妃殿下も臨場熱心に御覧遊ばさる		硬球	
73	大阪時事新報	T12.7.7	此頃の婦人風俗	有		田村富美子の運動服の紹介
	時事新報	T12.7.30	鎌倉の男女合同庭球（第二日）田村梶川勝つ		硬球	第2回内外人合同庭球大会
74	時事新報	T12.7.30	鎌倉の内外人合同庭球（第三日）興味を湧かした男女混合試合		硬球	
	時事新報	T12.8.5	鎌倉の庭球トーナメント　決勝は十九日		硬球	
75	東京朝日新聞	T12.10.26	幸福の女王　田村富美子さんのお目出度	有		田村富美子が祖父光顕の跡目相続人となる事に関する記事
	大阪朝日新聞	T12.10.27	お目出度を前に　お伽噺の女王様女流選手田村嬢	有		
76	？	？	女子運動界の明星(6)　ダブルの覇権を握った田村富美子さん　全國女學生の美しい憧憬の的　東都女子運動界の寵児	有		個人紹介記事
77	？	T13.6.1	青空のもとで　ベルギー大使令嬢（左）　田村富美子嬢（右）	有	硬球	ベルギー大使令嬢とのテニス写真記事
78	大阪毎日新聞	T14.4.3	銀ブラの女流選手	有		田村と梶川の銀座での買い物写真記事
79	The Japan Times & Mail	T14.4.24	"They grow in beauty, side by side"	有	硬球	第4回関東女子庭球選手権大会
80	家庭朝日（大阪朝日新聞付録）	T14.		有		大阪朝日新聞付録「家庭朝日」（スポーツと旅行の巻）の表紙写真

81	?	T15.	御芽出度	有		福田正之助と田村富美子の結婚式写真記事
82	アサヒグラフ	T13.	全日本テニス大會に覇を争ふた御嬢様	有	硬球	日本庭球協会主催 第1回全日本庭球選手権大会

（ごとう・みつまさ　政治経済学部准教授）